

読む湘南

～少しだけためになる海の話～

vol.13
2012.12

ダメとかムリとか言う前に

まずはエネルギーの「今」を知ろう

Photo: TON-P

Take Free ♪ ～湘南ビジョン研究会～

衆院選でも争点の一つとなっている電力政策の未来。原発反対派であれ容認派であれ、効率的な代替エネルギーがあれば、というのは共通する願いです。海に恵まれたここ湘南の、再生可能エネルギーのあり方を探ります。——湘南ビジョン研究会代表 片山 清宏



私たち「湘南ビジョン研究会」は毎月1回、「湘南の海を考えるミニフォーラム」を開催しています。「読む湘南」ではフォーラムの内容を毎回フォローしていきます。

■湘南地域の再生可能エネルギー 現状と課題

講師 神奈川県環境農政局
新エネルギー・
温暖化対策部長

藤巻 均氏



が、神奈川県が今、どのような取り組みをしているかをご説明します。

まず「かながわスマートエネルギー構想」とは何か。3つの原則を掲げています。①「原子力発電に過度に依存しない」②「環境に配慮する」③「地産地消を推進する」。これは

黒岩県知事が自ら設定した原則です。

①は3. 11の原子力発電所の事故により、これまでの原子力発電依存のエネルギー政策を抜本的に見直さなければならぬ、という基本的な問題提起です。②は原子力に頼らないとなると、どうしても火力発電に依存せざるを得ない。そうするとCO₂（二酸化炭素）排出量が増えますよね？そうした環境問題への配慮です。③は私たちは今まで原子力発電所が立地している地域の皆さんにリスクを負わせながら豊かな生活を享受してきました。これからはできる限り自分で使うエネルギーは自分で生産するという事です。具体的な取り組みは「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」の3つです。

数値目標も掲げています。神奈川県の年間の電力消費量は、約502億kWh（キロワットアワー）です。そのうち再生可能エネルギーで供給されている割合は（単純に消費量と生産量の比較です）、2.3%ほどです。これを2020年度までに16%程度まで高めていくという目標です。

では、なぜ16%なのか。太陽光や風力、小水力などいろいろある再生可能エネルギーを、それぞれの都道府県で将来的にどのくらい導入できるポテンシャルがあるのか、という調査を経済産業省が行いました。神奈川県は太陽光が主体ですが、大体16%ということでした。この16%は、例えば太陽光でいうと、1981年以降、いわゆる新耐震基準が適用されて地震がきても壊れないであろうとされている住宅や工場、事業所などの建物すべてに設置してようやくこの程度の発電量になるというイメージです。神奈川県に限

らず、都市部は太陽光のポテンシャルが比較的高いです。特別に日照時間が長いというわけではありません。要は太陽光パネルを設置できる住宅や建物が多いということです。

では太陽光は神奈川県内でどのくらい普及しているかということ、昨年度末で出力は20.4万kWです。先ほどの年間消費量に対しては1%にも満たない。16%を目指すには毎年度、倍々で伸ばしていかなければなりません。

また風力は年間の平均風速が毎秒6m以上ないと事業採算性が確保できないと言われていています。県内ですと三浦半島が比較的風が強いですが、ここ湘南はギリギリ限界という状況ですね。

太陽光発電や風力発電などの導入を促進するため、今年7月に再生可能エネルギーの「固定価格買取制度」がスタートしました。再生可能エネルギーで発電された電気を、電力会社が固定価格で一定期間、買い取ることを義務づけたものです。ここでは太陽光発電の買取制度についてご説明します。（※スペースの関係上、細かな算出方法などは省略します）

太陽光発電の買取制度は、発電量10kW未満の住宅用と、10kW以上の産業用に区分されます。住宅用は、発電した電気を自家消費し、余った分を電力会社が10年間買い取ります。産業用は、発電した電気の全量を20年間買い取ります。

太陽光発電の設置にかかるコストは年々安くなっています。最新のデータでは、住宅用は1kW当たり47万2000円。平均的な設備は3.3kW程度ですから、設置費用は約156万円ですね。国、県、市町村から補助金が出ますので、実質負担額は約134万円になります。これに対し、自家消費による電気料金の節約と売電による収入は10年間で122万円。差し引き12万円程度の負担が残ります。年々安くなっているとはいえ、設備の設置に100万円以上の費用が必要な上に、最終的に負担も残るわけです。

湘南の未来と再生可能エネルギー

2012年11月14日

第13回テーマ

神奈川県では、この費用を抑えるために「ソーラーバンクシステム」を運用しています。ポイントは安く設置して下さるメーカーや施工者を公募するとともに、申込みの受付窓口を一本化することにより、販売経費を削減していることです。その結果、住宅用は1kW当たり36万円台の設置プランも登場しています。また、設置費用を抜本的に下げる提案を公募したところ、実費負担8万円だけのプランが出てきました。実際の設置費用はもっとかかりますので、残りは設置する事業者が負担することになります。事業者は負担した費用をどうやって回収するかというと、発電量を2：8でシェアし、8割の取り分を売電して回収します。なお、県民の皆さんは、2割の取り分を自家消費し、電気料金を節約できますので、8万円は4年程度で回収できます。

産業用の太陽光発電は、発電した全量を20年間買い取ってくれますので、住宅用に比べ利益率が高い。「ソーラーバンクシステム」の設置プランでは、20kW前後の設備が900万円ほどで設置できますが、20年間で1500万円程度の売電収入が見込めます。県は多くの県有施設を管理していますが、財政状況が厳しいため、太陽光発電の設置費用を捻出できません。そこで全国で初めて取り入れたのが県有施設の「屋根貸し」です。屋根を20年間お貸ししますから太陽光パネル設置していいですよ、その代わりに屋根の使用料を払ってくださいという単純な仕組みです。県立高校などを中心に20施設を提示して屋根を借りる事業者を公募し、完売しました。

街づくりもエネルギーを意識したものに変わってきています。ここ藤沢では、辻堂元町のパナソニック工場跡地。あそこにパナソニックさんが中心になって、いわゆるスマートタウンを計画しています。1000戸の住宅や商業・公益施設に太陽光パネルを設置し、蓄電池も導入して、街全体のエネルギーを効率的に管理します。世界的に見ても、これほど大規模なプロジェクトはありません。2014年に「街びらき」が予定されており、未来都市の1つの形が藤沢で実現するわけです。

最後に1つ、蓄エネのお話を。蓄エネというのは当然、蓄電池が必要なわけですが、今、日本で売られている一番安い蓄電池が何か分かりますか？日産の電気自動車「リーフ」です。電気自動車は「走る蓄電池」と言われていますが、実は蓄電池を単独で買うよりリーフの方が安いのです。

電気自動車を蓄電池として使い、夜間の安い電気を蓄電して昼間に使うことにより、使用電力のピークカットや電気料金の節約ができます。神奈川県は2014年度までに3000台の電気自動車の普及を目指していましたが、おかげさまで2年前倒して達成しま



東京電力福島第1原発4号機の原子炉建屋。3.11を境に日本の電力政策は大きな転換を迫られた

辻堂にできるスマートタウンは世界最先端蓄電池としての日産リーフはあり

した。今年の9月末現在で3664台は全国トップシェア、県内の急速充電器129カ所というのも全国トップレベルです。

■湘南の海を活かした新エネルギーとは

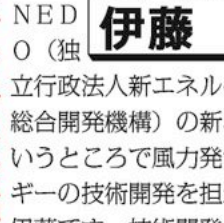
片岡 藤巻さんありがとうございました。続きまして「湘南の海を活かした新エネルギーとは」というテーマでパネルディスカッションに入りたいと思います。まず初めに上野さんと伊藤さんの方から自己紹介をお願いしたいと思います。

講師 茅ヶ崎自然エネルギーネットワーク代表 上野ひろみ氏



上野 ちがさき自然エネルギーネットワークの代表をしております上野と申します。この10月にNPO法人になりました。今日はよろしくお願ひします。我が家では1998年10月に太陽光発電を設置しました。太陽熱温水器は新築時から16年使って、2年前に新しいものと取り換えました。会の活動については次に話したいと思います。

講師 NEDO新エネルギー部主任研究員 伊藤 正治氏



伊藤 NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の新エネルギー部というところで風力発電や太陽エネルギーの技術開発を担当しております伊藤です。技術開発の現状をご紹介します。よろしくお願ひします。

片岡 最初に上野さん。現在、再生可能エネルギーの導入推進は国や県など行政側が引っ張って、民間の企業を活用していこうというのが流れです。その一方で、市民の側からこれを推進しているのが上野さんです。市民の視点でどういった活動をしているのかをお話いただけますか？

上野 市民が作った太陽光発電所、市民が育てる節電所ということでお話をさせていただこうと思います。

私たちの会は1999年の3月から自然エネルギーの普及啓発を目的に学校への出前授業など行ってきました。活かそう太陽エネルギー！目指せ「茅」産「茅」消。茅ヶ崎で生み出された電気を茅ヶ崎で消費していこうということを合言葉に活動しています。市民が作ったという意味で「市民立、太陽光発電所を、茅ヶ崎市民活動サポートセンター」というところに2009年6月30日に設置しました。「れんこちゃん1号」(会の名称「REN」に由来)と呼んでいます。茅ヶ崎市の施設なのですが、市の方といろいろ話していく中で屋根の目的外利用の許可を得て、私たちが発電設備を取り付けるという形になりました。発電した電気をまずはサポートセンターで使用し、余った分は売電します。売電分と自家消費分を市の基金に積み立て、それに寄付金も併せて2011年3月に「れんこちゃん2号」の設置費用に充てました。茅ヶ崎子どもセンターという所です。

節電に関しては2010年6月、サポートセンターにキャノ

ピーススイッチというのを設置しました。蛍光灯を1つずつつけたり消したりできるスイッチです。広い部屋の一部しか使っていないのに、全ての蛍光灯がついていたらもったいないですからね。

この節電効果が絶大で、導入後2年間で金額にすると57万9305円になりました。電気を作る→余った電気を売る→節電で購入電力が減って売的分が増える、という流れです。発電設備の設置に600万円近くかかりましたが、キャノピースイッチの設置費用はわずか4万円です。ですから茅ヶ崎市の公共施設はもちろん、各家庭でもまだまだ節電は可能なのではと思います。

片山 NPOが公共施設の上に太陽光パネルを設置するのは結構不思議なことだと思います。これは市の方から屋根を貸す、というお話があったのですか？それとも上野さんの方から貸してほしいと頼んだのですか？

上野 「付けたいので屋根を貸して下さい」という風にお願ひしたのが最初です。茅ヶ崎も初めての取り組みだったので、ここまで来るのは実際大変でした。どうしても行政の方はできない理由をたくさん言うてくださるのですが、最後の方は「できない理由じゃなくて、どうしたらできるのか一緒に考えてください」とお願いしました。私たちはそこで発電した電気の価値をその施設だけで使ってしまうのではなく、資金が循環する仕組みを作りたかったのです。

片山 循環というのは、その余った分を売電して、その利益を基金に積み立てる。それで同じ様な設備を広めていくために、その基金を活用するという流れですよ？藤巻さん、今の県の政策から、こういった市民の活動をどういう風に見られているのかというのをちょっと教えていただけたらと思います。

藤巻 茅ヶ崎の市民の取り組みには非常に注目しております。市民の皆さんがこういう形で発電事業に参加していくということが、これからの1つの大きな流れになっていくと思います。初期の投資費用を確保して、後は売電収入で回していくという点がポイントです。茅ヶ崎の場合、補助金などを活用して、発電事業の採算が合うというスキーム（枠組み）ができました。

岩手県の紫波町という小さな町では市民からの「出資」という方法で発電事業を企画しています。出資金を原資にして、公共施設の屋根を借りて発電事業を行い、その利益を配当しようというスキームで、今、事業者を公募しています。このスキームが本当に成り立つのであれば、市民参加の発電事業が普及するはずですよ。

一番難しいのは、出資を募る時の配当金の利回りをどれだけ保証できるのかということ。まだ長期の発電量や事業収支に関するデータがないので、配当金の利回りを保証することは難しい。3万円でも5万円でも出資していただくのであれば、やはりきちんと配当できるように採算性を確保しなければなりません。配当の実績ができれば、こうした取り組みが広がっていくのではないかと思います。

片山 上野さんたちのような活動を他の自治体にも広げていくことができたらと思うのですが、上野さんは今どの

公共施設の屋根で行う発電に「出資」という考え方

風力の魅力は低コスト

ような課題や問題点を感じていますか？

上野 売電である程度お金を貯めていくシステムはできてきていますが、それでも新たな設備の設置には助成金の確保など資金面での課題が残ります。

片山 続いて伊藤さん。湘南の海という恵まれた資源を活かしてエネルギーを生み出すことはできないか？そういった視点で議論できればと思っています。まずは伊藤さんにプレゼンをしていただき、議論を進めていきたいと思ひます。

伊藤 風力発電というのは実は成熟している産業なんです。世界で234GW（ギガワット）導入されていて、1GWが原発約1基分ですから原発234基分に相当します。一方、洋上はまだ始められたばかりで4GW程度です。

風力発電の人気の秘密は発電コストにあります。太陽光発電が1kWhあたり30～45円かかるのに対し、風力発電は10～20円です。ただ陸上風力の場合、景観や騒音が問題視されることが少なくありません。その点、洋上風力発電はあまり問題になりません。海の上は風が強く、安定しており、陸地では輸送面で制限されてしまうような大きな風車を建てることも可能です。ただし設置には



日本の洋上風力発電の歴史は浅く、2004年、北海道・瀬棚港で稼働した「風海鳥（かざみどり）」が第1号

陸上に比べて多くの費用がかかってしまうのが問題点です。私たちのプロジェクトは2008年に調査を開始し、2010年から洋上風車実証実験を行っています。現在は銚子沖と北九州沖の2カ所。加えて現在主流の2000kWより大きな、7000kWの発電が可能な超大型の風車の開発も進めています。洋上風車は設置にコストがかかるため、大きくしないと採算が合わないんです。ヨーロッパでも大型化が進んでおり、三菱重工が技術開発を行っています。

その他の問題点としては塩害対策、加えて日本は台風や津波といった厳しい条件にも対処しなければなりません。海面を使用している人たち、つまり漁師さんですね。そういった人たちの理解も必要です。

それから波力や潮流といった海洋エネルギーの利用です。日本はぐるっと海に囲まれていますから、ポテンシャルは高いんです。特に太平洋側の波力のポテンシャルは高い。ですが技術開発という意味では、日本はまだなかなか実証実験の段階まで進めていないのが実情です。

片山 藤巻さん、洋上風力は非常に注目されているものの、日本は条件がそろわないと言われてしています。国主導で実験は行っていますが、実用化に向けてどう進めていくか。神奈川県は太陽光が中心というお話でしたが、洋上風力や波力・潮流をどう見えていますか？

藤巻 洋上風力については、まず東京湾はあれだけ船の往来がありますから、物理的に無理です。あとは三浦半島から湘南にかけて、適地が見出せるかということです。洋上風力は海岸に近い方が設置費用は安くなる。遠くなるほど技術的に難しいし、送電線も長く引かなければならず、コストがかかってしまいます。相模湾はヨーロッパの遠浅の海とは違って、海岸から比較的近いところで急激に深くなりますから、経済性という面でどうか。まずは実証実験の結果に注目しています。

それからもう1つ、海岸近くに建てる時には漁業権の問題が発生します。できることならば漁業権に関わらない範囲で発電設備を設置できるのであれば、浮き型の風力発電設備を漁礁として使うという発想もあるわけですから、いろいろな可能性を期待したいと思います。

片山 伊藤さん、この湘南の「海」、果たして今後新しいエネルギーを生み出すことができるのかどうか。その可能性を率直に教えていただければと思います。

伊藤 可能性は十分あると思います。日本の場合、太平洋というのは非常にポテンシャルが高い。景観や漁業の問題をどのように調整するのか、お互いどのように理解していくのかというのは湘南だけでなく、日本全体の課題だと思っています。

片山 洋上風力の設置場所は銚子だと沖3キロくらいですよ。発電量という問題もありますけれど、一つの観光施設みたいにならないかなと思うんです。船で行って実際見て、クルージングしてこよう、なんてことができれば面白いなと素人ながら考えました。

ここで会場からもご意見ご質問をいただきたいと思います。

ケント・ダム 鶴沼海岸でサーフショップを経営しておりますケント・ダムと申します。九州で大きな風車のついたメガフロートを行っていますよね？そこは魚の漁礁になるなど、漁師の方からは意外と好意的に捉えられているという話を聞きました。風車も風レンズ風車、ラップみたいになっていて、後ろの気圧が下がることで3倍くらい回るといふ風車がありますよね？コストの部分では大きくするしかないという話だったんですけど、風レンズ風車の導入についてはコスト面やパフォーマンス面からいってどのような位置づけなのでしょう。僕が聞いた話だと良いこと尽くめに聞こえたので。

伊藤 風レンズ風車というのは5kW程度の非常に小規模の風車です。銚子沖に設置した風車は2400kW、約1200戸の家庭の電力をまかなうことができます。しかし、風レンズ風車は規模が小さいので、今確かに博多湾で実証実験を行っているのですが、これから先、技術開発で風車を大きくできればそういった可能性もあると思っています。しかし現時点では通常の風車の方が効率の面からいってもすべて上というのが、一般的な見方ではないかと思っています。

また、先ほどから漁礁の話が出ていますが、確かに魚が集まるというのはあると思います。ですが、魚の絶対量は変わってなくて、近くに住む魚が集まっているだ

けという見方もあります。そういったものはしっかり長期間調査をして、定量的に判断していかないと皆さんのご理解をいただくのは難しいと思っています。

参加者 調子の沖合い3キロだと黒潮がかかってきます。黒潮の流れには影響が出ないのですか？

伊藤 確かに海底含めいろいろな影響があるのではなにかという意見もありますが、よく分かっていません。実証研究の中で侵食などの調査も続けていくべきだと思います。

参加者 厚木市で環境エネルギー政策を担当しているものです。上野さんにお伺いしたいのですが、スイッチの変更でそこまで効果があるのかということが驚きでした。設置費4万円というのがどの程度の範囲かということと、機器だけなのか施工費なども含まれているのかということをお聞きしたいと思います。

上野 スイッチは32カ所に付けました。材料費500円、施工費は1カ所につき1000円というお見積もりをいただいていたのですが、できる部分はお手伝いした結果、4万円になりました。ですから施工費含めて4万円です。

片山 ありがとうございます。最後に講師の皆様にとどの部分のエネルギーが鍵になるかということを入れまして、一言ずついただければと思います。

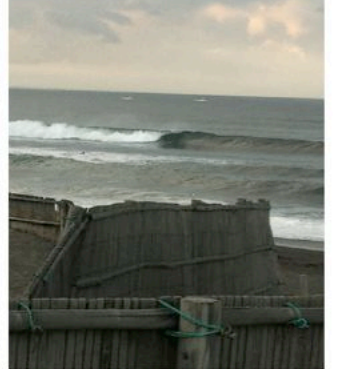
伊藤 洋上風力発電の取り組みは日本ではまだまだこれからということろです。日本のエネルギー問題解決のため、ぜひ市民の皆様にもご協力いただきつつ、着実に普及に向けた活動を推進していきたいと考えております。

上野 茅ヶ崎では太陽光以外では新たなエネルギー利用は難しいかもしれませんが、相模川の水流を利用した小水力発電というのもできないかなと考えています。また廃食油でエネルギーを生み出そうと考えているグループもあります。私たち小さな団体ができることは限られていますが、これからもコツコツと頑張っていきたいと思っています。

藤巻 神奈川県再生可能エネルギーの導入は、当面は太陽光が主体となると思います。また、これから技術開発が進めば風力などの利用の可能性も広がると思います。県としては、地域に密着した再生可能エネルギーの導入を促進し、地域振興に結びつけたいと考えております。

片山 再生可能エネルギーを考える時、単に原発に変わるエネルギーとして考えるのではなく、地域の資源を活かす、地熱や風、海もそうです。それぞれの地域の資源を活かすことが重要かと思っています。もう1つコストの面、採算性を考えるのが難しいというお話がありましたけれど、これは技術革新の余地が大きいということでもあると思います。これが地域の産業と結びついて、地域振興にもなる施策を考えていくのが大切だと今日のお話を聞いて感じました。今日はありがとうございました。

サーファーのみならず、波の持つパワーには期待したくなる



洋上風力に立ち上がる「相模湾」という壁

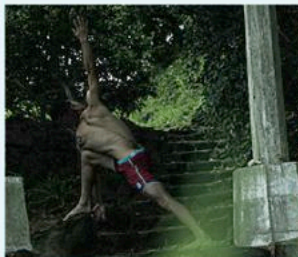
「波」に期待していいですか？



海での暮らしを日々楽しむ方々をゲストに招く「海楽（かいらく）主義」。9回目はヨガのインストラクターで、「108 towa yoga」を主宰する山本俊朗さん(36)にお話をうかがいました。サーファーでもある山本氏は、ヨガとサーフィンに環境保護も組み込んだ「towa yoga ocean」のコンセプトを提唱。ヨガを通じて自然に恩返しするライフスタイルや極貧時代の裏話、今後の目標など語っていただきました。

山本 俊朗さん

108 towa yoga 主宰



「元々、体は固い方でした。前屈で手がつかつかつかないくらいからのスタートでしたね」

湘南を中心に横浜や都内のスタジオで多くのレッスンを受け持つ通称「トシ先生」。写真のような柔軟性を誇るトシ先生もかつては体が固かったと聞けば、初心者やヨガ未経験者も勇気づけられるというもの。

「サーフィンをしていて、やっぱり柔軟性が必要だと感じていたんです。幸運だったのは家庭内にヨガがあったこと。僕の師匠は母です。母がヨガをやっているのを見て、自分も始めました」

——サーフィンはいつ頃始めたのですか？

「20歳頃です。奈良から静岡に引っ越して、浜松でショップに入って大会に出たりして、8年くらいはサーフィン漬けでしたね」

美里夫人との交際がきっかけで湘南に移住した。それ以前は静岡と名古屋の「スタジオヨギー」（日本各地に店舗を持つヨガスタジオ）でヨガを指導。渋谷で一人暮らしをしながら都内でもレッスンを持つようになったが、生活は苦しかったという。

「午前中クロネコヤマト（ヤマト運輸）で配送のバイトして、午後は本格的にヨガの指導者になるためのレッスンをたくさん受けていました。1日レッスン3本とか（笑）。

みんなでバス借りて太平洋岸をサーフトリップしながらヨガを伝えてビーチクリーンして美味しいもの食べて出会い、人、出来事、見えてきた問題全てを大切にしたい。要は自分たちが楽しみたいだけなんですけどね(笑)

めっちゃ貧乏生活でしたよ！米は親に送ってもらっていたんですけど、なんか臭い。電話して『この米、腐ってない？』って聞いたら『新米送ってあげてるのに、そんなはずない！』って怒られて…。なんてことはない、お米を炊いていた渋谷の水道水が臭かった(笑)。かといって、ご飯を炊くためにミネラルウォーターを使うなんてお金はどこにもありませんしね」

——水の美味しい土地で育った人には辛かったかもしれないですね(笑)。さて、トシ先生はご自身の経験を元に、サーフィンとヨガを絡めた新たな取り組みを始めると聞きました。

「towa yoga oceanというコンセプトで、サーフィンとヨガと環境の3つを融合させた活動をしていこうと思っています。僕は毎日ヨガを仕事としてやっているわけですけど、仕事が忙しくてサーフィンが全くできない時期があって、サーフィンをしている時のヨガの仕事と、サーフィンができない時の仕事のクオリティーが全然違っていたんですよ。両立できている時は本当に心がハッピー

◆山本 俊朗（やまもと・としろう）1976年5月13日生まれ36歳。奈良県出身。母の影響で26歳からヨガを始める。美里夫人とともに「108 towa yoga」を主宰。108は煩惱の数、towaは永久（とわ）に由来。湘南、都内を中心に全国でワークショップを開催する。古典的なヨガの教えを現代生活に活かす哲学と、解剖学の観点から身体の治癒力や活力を最大限に引き出すヨガアプローチを見出した独自のヨガスタイル「Toshi-yoga」を提唱する。ボランティア活動にも力を注ぎながら自然と海を愛するサーフヨギー。信条は「ヨガは全ての人の中に」。茅ヶ崎市在住。http://towayoga.com/

なんです。そのハッピーの根源は何かという、自然との共存なんだと思いました」

—具体的にはどのような活動を？

「ヨガを通じてサーフィンに感謝を、そして自然の中で遊ばせてもらっているのだから、やっぱり環境にも恩返しを、と思っています。手を広げて大空を見上げ、大地に顔を近づけ踏みしめる。ビーチヨガで地球を近くに感じて自身の浄化を感じることができたら、次はゴミを拾ってビーチを浄化しましょう。サーフィンのトレーニングやケガの予防にヨガのメソッドをもっと取り入れて、解剖学的に体系立てて取り組んでいきたい」

—ヨガを通じて、環境の保護も行っていくということですね？

「みんなでバス借りて太平洋岸をサーフトリップしながらヨガを伝えて、ビーチクリーンして美味しいもの食べて…。出会い、人、出来事、見えてきた問題、そんな全てを大切にしたい。要は自分たちが楽しみたい



だけなんですけどね(笑)。その課程をリアルタイムでネットにアップしたら、僕たちにとっても、ネットで見ている人たちにとっても、凄く『学ぶ旅』になると思うんです。そんなことを自分ができたら最高ですね」

「政策コンテスト」防災・交通分科会 江口リーダーが優勝

私たちが目指す理想のまちづくり「湘南都市構想2022」 12月2日・中間発表会

「湘南ビジョン研究会」は、10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」を地域の住民とともに策定しています。

サイクリングロードと海上交通網を同時に充実させる大胆なアイデアが最多投票を獲得

去る12月2日(日)、茅ヶ崎市の松下政経塾にて「湘南都市構想2022」中間発表会を行いました。当日は180人を超える地元の方々にご参加いただき、たくさんの励ましのお言葉をいただきました。本当にありがとうございました。

発表会では、「教育・スポーツ」「産業・観光」「医療・福祉」「防災・交通」の4つの分科会リーダーがそれぞれ個性豊かな政策をプレゼンし、会場の皆さんの投票により最優秀賞を決めるという「政策コンテスト」を行いました。優勝したのは「防災・交通分科会」の江口リーダー(写真左)。湘南地域にサイクリングロードと海上交通網を



同時に充実させるという大胆なアイデアが会場の皆さんの心を捉えました。優勝は逃したものの、他の3分科会リーダーのプレゼンも魅力あふれるものでした。

今回の中間発表を踏まえ、来年2月9日(土)に「湘南都市構想2022」の最終発表会「湘南未来フォーラム2013 in 江の島」を開催することが決定しました！みんなで考えた湘南の未来、ぜひご注目ください！参加費は無料です。参加ご希望の方は下記アドレスまでご連絡下さい。

2月9日(土) 神奈川県立かながわ女性センター
湘南未来フォーラム 2013 in 江の島
～湘南から日本の未来を切り開く～
≪片山清宏・松下政経塾卒塾フォーラム≫

- ▼日時 2月9日(土) 12:30開場 13:00～16:30
- ▼場所 かながわ女性センター【ホール】(定員500人)
藤沢市江の島1-11-1
- ▼内容 第1部 研修成果発表
片山清宏(松下政経塾第31期生)
第2部 基調報告 湘南ビジョン研究会
「湘南都市構想2022」最終発表会
第3部 パネルディスカッション
&会場クロストーク
- ▼懇親会 17:00～18:30
江の島アイランドスパ4F「アイランドグリル」
<お申し込み・お問い合わせ>
shonan_vision@hotmail.co.jp 担当:片山

鶴沼パスタダイナー

SPOON

スプーン

ウチはイタリアンではなく
パスタ専門店です。パスタなら負けません

「ウチはイタリアンではなくパスタ専門店です。パスタなら負けません」

そう話す「藤沢パスタダイナー スプーン」のオーナーシェフ、伊藤学さん(36)は地元・鶴沼育ち。パスタ店で5年間勤務した後、「大好きな街」という藤沢で開業して8年目になる。大きな窓から目の前を走り抜ける江ノ電がよく見える、明るく開放的な店内。パスタ専門店でありながら「フォーク」ではなく「スプーン」という風変わりな店名にも惹かれる。

「よく聞かれます(笑)。イメージは大きじ小さじのスプーン。格好良く言えば、「あなたの生活にひと味お付けします」という気持ちで名付けました。それともう1つ、イタリアでパスタを食べる時にスプーンを使うとお子様扱いされますが、食べやすいなら

あった方がいいじゃん!という僕なりの抵抗も含んでいます」

自慢のパスタは約80種類。それでも絞りに絞って80種類なんだとか。

「パスタはどんな食材と

でも合わせることができる料理です。美味しいものを無限に提供できる可能性がある。1年を通じて一番多くご注文いただくのが「カルペチーノ」ですね。ある時スタッフが、カルボナーラとペペロンチーノ、どっちも食べたいけど決められない、と言ったので、じゃあ2つ足したのを作るよ、というのがきっかけです」

ほんのり辛みの効いたカルボナーラは、なるほどありそうでなかった一皿。

パスタはイタリア・バリラ社の「セレスシオーネ・オロ・シェフ」を使っている。プレミアム・デュラム・セモリナ粉のみを使用したバリラの最高級品で、本場イタリアのトップシェフがこぞって愛用する逸品だ。

「最高の食感、噛み応え。ひと言で言えば「究極のアルデンテ」です。市販されていないのですが、どうして



季節野菜のミートソースパグェッティ + スプーンセット

も使いたくて代理店に問い合わせたところ、小さなお店は相手にしないと一蹴されました。どうにか分けてくれるところを探して使い始めて、数年後に代理店の方から使ってくださいと営業があった時はうれしかったですね」

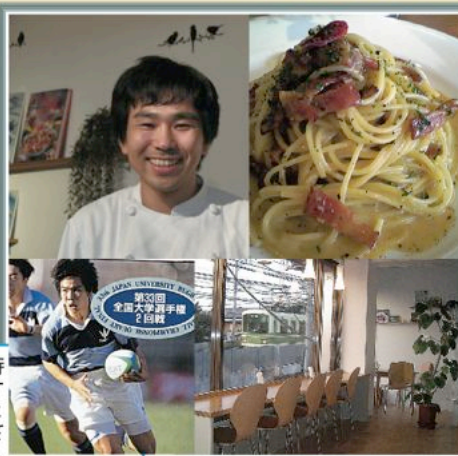
今でこそすっかり料理人の伊藤さん、実はかつては関東学院大で大学日本一にもなった名ラガーマン。一般入試組にも関わらず200人いる部員の中からレギュラーを

獲得したのだから、ハングリー精神は折り紙付きだ。

「周りは推薦で入ってきた人ばかりで、1軍から10軍(笑)くらいまでありましたからね。無名の高校から一般受験で入ってきた僕は、誰だアイツ...という状態でした」

かわいらしい内装と工夫を凝らした多種のパスタ、それにラグビーが不思議なバランスで同居する「スプーン」。最後に今後、どういお店を目指すのかを聞いてみた。

「分かる人には分かる味、というのは違うと思っています。食通ウケする料理じゃなく、みんなが美味しいと思うパスタを作っていきたい。食材など、そのためにこだわるべき部分はとことんこだわっていきます」



10時から時計回り3回オーナーシェフの伊藤学さん 一番人気のカルペチーノ 目の前を江ノ電が走り抜ける店内 関東学院大時代に伊藤シェフが掲載されたラグビー誌

■営業時間 11:30~16:00 (L.O 15:00)
17:30~22:00 (L.O 21:00)
金曜のみ~23:00

■電話番号 0466-27-1313 火曜、第3水曜定休
■住所 藤沢市鶴沼石上2-1-15塩野ビル2階
藤沢駅南口から江ノ電の線路に沿って石上駅に向かって徒歩6分。

※パスタ10種から選べるランチは前菜にサラダ、デザート、ドリンクまで付いて900円~。ディナーは全てのパスタにプラス800円で前菜3種、きのこのサラダ、アルコール類を含む1ドリンクにデザートが付くスプーンセットがお得。

〈お店からもうひと言〉パスタソースはもちろん、ドレッシングやデザートも全て自家製です(アイスクリームを除く)。紅茶は近くの専門店「ディンブラ」の茶葉を使用、コーヒーは辻堂の専門店「27 COFFEE ROASTERS」の豆を当店内で挽き、レンチプレスで淹れています。ぜひお試しください。